

住み心地日本一の滋賀を目指します!

不安なく
楽しく暮らせる
滋賀

人と自然が
つながる美しい
滋賀

たくましく
活気に満ちた
滋賀

安全・安心な
滋賀

滋賀の未来戦略 ~未来を拓く8つの扉~

2つの成長と3つの力

県民の不安の解消を新たな需要や雇用の創出、拡充につなげるにより、社会的課題を解決し、その経験を積みながら地域の人々の力を発揮させる「**社会成長**」と、経済的な活力を高める「**経済成長**」を同時に達成します。

「**社会成長**」と「**経済成長**」の原動力となる「**人の力**」、「**自然の力**」、「**地と知の力**」を活かすことにより、「**未来を拓く共生社会**」を実現します。

「滋賀の未来戦略」で目指す姿 ~「住み心地日本一の滋賀」を目指して~

「滋賀の未来戦略」では、「**未来を拓く共生社会**」を実現する第一歩として、**住み心地日本一**と感じられる滋賀を目指します。その具体的な姿は次の4つの滋賀の姿で描きます。

【4つの姿の実現を目指す】

子ども、若者、高齢者などが、人と人をつながりの中で、**不安なく楽しく暮らせる滋賀の姿**

かけがえない琵琶湖の再生や低炭素社会の実現に向け、**人と自然が
つながる美しい
滋賀の姿**

足腰の強い経済に支えられた、**たくましく活気に満ちた
滋賀の姿**

県民みんなで命と暮らしを守る**安全・安心な
滋賀の姿**

住み心地日本一の滋賀



不安なく楽しく暮らせる滋賀の実現に向けて (人の力を活かす)

1 子育て・子育て応援プロジェクト

- 生まれる前・生まれる時の医療と医療人材を充実します。
- 自然や文化・芸術についての子どもの体験を量的・質的に充実します。
- 特色ある学科を設置するなど魅力と活力ある県立学校づくりを進めます。

例えば… 産婦人科医数
[平成21年度:42人→平成26年度:46人]

産婦人科医を
増やします!!



NICU (新生児集中治療管理室)

2 働く場への橋架けプロジェクト

- 地域や企業など現場の人による子どもの多様な職業教育を進めます。
- 高等学校・大学・企業などとの連携による若者の就職支援と、失業者や離職者への職業訓練を充実します。
- 女性の就職や社会活動の継続・復帰を応援します。
- 障害のある人が働く場や自立を目指した地域生活の場を充実します。

例えば… 就業人口の継続的な増加

就業人口の
増加を
目指します!



中学生による職場体験
(中学生チャレンジウィーク)



若年求職者と県内企業との交流会
(滋賀の「三方よし」人づくり事業)

3 地域を支える医療福祉・在宅看取りプロジェクト

- 地域医療を担う医師・医療専門職を育成します。
- 県民の健康づくりや疾病の早期発見・早期治療を支援します。
- 医療と福祉が連携し、在宅で療養できる体制の整備や地域でのかかりつけ医を確保します。また、地域ぐるみで高齢者を見守る仕組みづくりを進めます。

例えば… がん検診受診率 [平成21年度:胃がん45.8%、肺がん50.2%、大腸がん44.7%、子宮がん37.2%、乳がん36.3% →平成26年度:各50%以上]

がん検診受診率
50%以上を
目指します!



訪問診療の風景



人と自然がつながる美しい滋賀の実現に向けて (自然の力を活かす)

4 低炭素社会実現プロジェクト

- 鉄道等の公共交通機関や自転車によるエコ交通の促進と、電気自動車等のエコカーへの転換を進めます。
- 住宅への自然エネルギー導入や省エネ住宅への改修など、低炭素社会を実現するまちづくりを促進します。
- 経済界と協働して行う地球温暖化対策や中小企業のCO₂排出削減への支援などを行います。

例えば… 滋賀県域の温室効果ガス排出量(平成2年比)
[平成19年:△2.6%→平成24年:△50%]

温室効果ガス
排出量50%削減を
目指します!



電気自動車(滋賀県公用車)

5 琵琶湖の再生プロジェクト

- 琵琶湖の在来魚を増やし、漁獲量を拡大します。
- 水質汚濁メカニズムの解明など、琵琶湖流域の水環境・生態系の保全・再生を進めます。
- 環境保全活動を支援し、人の暮らしと琵琶湖の関わりの再生を進めます。
- 琵琶湖淀川流域の関係者の参画と連携による流域自治を進め、上下流の枠組みを超えた流域全体の統合的な管理を図ります。

琵琶湖の
漁獲量(外来魚を除く)を
増やします!



ビワマス稚魚の放流



西の湖

最大の内湖。西の湖をモデルに、ニゴロブナとホンモロコの稚魚を放流し、これら魚種の繁殖場としての内湖の機能を評価します。

例えば… 琵琶湖漁業の漁獲量(外来魚を除く)
[平成20年:1,368t→平成26年:2,100t]



安全・安心な滋賀の実現に向けて(未来戦略を支える)

8 みんなで命と暮らしを守る安全・安心プロジェクト

- 県の危機管理機能の強化と、自助・共助による地域防災の組織力の向上を進めます。
- 重層的な防犯ネットワークづくりや生活に密着した身近な道路を中心とした交通安全対策を進めます。
- 適正な河川管理と市町との協働による流域治水を進めます。



たくましく活気に満ちた滋賀の実現に向けて (地と知の力を活かす)

6 滋賀の未来成長産業プロジェクト

- 環境、医療・健康、モノづくり基盤技術の分野で、新たな分野への挑戦を進めるとともに、アジアをはじめとした海外展開の推進など、県内企業のグローバル化を支援します。
- 医療、福祉・介護、子育てでの分野でのサービス拡大や創業を支援します。
- 産学官金民連携や地域間連携を進めるとともに、地の利や知の集積を活かし、広域的な視野をもって成長戦略の拠点を形成します。

例えば… 医療・健康分野での創業数(第二創業を含む)
[平成21年度:2件→平成26年度:8件(累計)]

医療・
健康分野での
創業数を
増やします!



県外大手企業と県内中小企業との商談風景
(近江技術てんびん棒事業)

7 地域の魅力まるごと産業化プロジェクト

- 消費者に支持される滋賀の農業の確立により、「環境こだわり農産物」や近江米、近江牛、近江茶、湖魚など滋賀の食のブランド力を向上させるとともに、地産地消を進め、消費拡大を図ります。
- 多様化する観光客のニーズに合わせて、滋賀の自然や歴史・文化の魅力を発信し、滋賀ならではの特性を活かしたテーマ性やストーリー性のあるツーリズムを推進するとともに、訪れる観光客をおもてなしの心で迎えることにより、滞在型をはじめとした魅力ある観光を展開します。

観光客数
(宿泊者数)を
増やします!

〈滋賀は文化財の宝庫〉



彦根城

延暦寺根本中堂

石道寺
十一面観音

例えば… 観光客数(宿泊者数)
[平成21年:2,864,500人
→平成26年:330万人]



地産地消を進める
「おいしがうれしが」キャンペーン



アール・ブリュット
(自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現した芸術。フランス語で「生(き、なま)の芸術」の意)



防災かまどベンチ
(通常はベンチとして利用し、非常時には炊き出しができるかまど)



安全なまちづくり啓発活動の様子

交通事故による
死亡者を
減らします!

例えば… (仮称)危機管理センター整備計画の具体化
交通事故による死亡者数
[平成21年:65人→平成26年:60人]

滋賀の強み

「人の力」

「自然の力」

「地と知の力」

滋賀には、140万県民の「人の力」、琵琶湖の恵みや周辺の森林などの「自然の力」、地理的優位性、大学・研究所の集積、豊かな文化性といった「地と知の力」という強みがあります。

これらの強みを活かし、県民や各種団体、企業、行政が協働し、知恵を出し合い、工夫を凝らして、未来を先取りしながら、次の世代も幸せや豊かさを実感できる未来を拓いていきます。



共生社会へ

暮らしの将来の姿

- 健康** いくつになっても活動的でいられ、幸せな最期を迎えられる社会
- 働く** 仕事と家庭や地域生活を両立できる社会
- 住む** 歩いて暮らせる安全・安心で環境と共生する社会
- 学ぶ・育てる** 人間性や生きる力を育む社会
- 楽しむ** 伝統・文化や自然、地域に親しめる社会
- つながる** 交流を深め、支え合う、つながりのある社会

経済・産業、環境、県土の将来の姿

環境との共生を図りながら、地域特性を活かした産業が展開する資源循環型の地域社会で、自然災害に強く、安心して暮らせる社会



県政経営の基本姿勢

自らの権限と財源のもとで、滋賀の実情に応じた効果的かつ効率的な県政経営を行い、地域主権の時代を先導する県づくりを進めます。

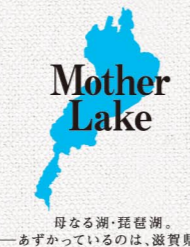
- 市町とともに地域主権社会を担う存在感ある県政経営
- 県民から信頼される県政経営
- 滋賀の存在感を高める県政経営
- 持続可能で活力ある県政経営



滋賀県庁

〈 滋賀の未来戦略プロジェクトにおける、平成26年度(2014年度)の目標とする指標 〉

	成果指標	目標
子育て・子育て支援プロジェクト	産婦人科医数	[平成21年度:42人 → 平成26年度:46人]
	発達障害者支援キーパーソン数	[平成21年度:9人 → 平成26年度:42人]
	文化・芸術の体験学習を行う児童生徒数	[平成21年度:8,949人 → 平成26年度:14,000人]
	子ども体験プログラム提供団体数	[平成21年度:80団体 → 平成26年度:100団体]
働く場への橋架けプロジェクト	就業人口の継続的な増加	継続的な増加
	職業訓練受講者の就職率	[平成21年度:65% → 平成26年度:70%]
	男女共同参画センターの支援を受けて活躍する女性の数	[平成21年度:18人 → 平成26年度:100人]
	平日の昼間に保育を利用できる児童の数	[平成21年度:26,897人 → 平成26年度:29,000人]
	放課後児童クラブの受入人数	[平成21年度:8,232人 → 平成26年度:10,000人]
地域を支える医療福祉・在宅看取りプロジェクト	働き・暮らし応援センターを利用して就業する人の数	[平成21年度:287人 → 平成26年度:500人]
	がん検診受診率	[平成21年度:胃がん45.8%、肺がん50.2%、大腸がん44.7%、子宮がん37.2%、乳がん36.3% → 平成26年度:各50%以上]
	生活習慣病(がん、脳血管疾患、急性心筋梗塞)による年齢調整死亡率	[平成20年度:179.9人 → 平成26年度:160.0人] *人口10万人あたり。基準を昭和60年の年齢構成として調整したもの。
	在宅療養を支援する機能の整備箇所数	[平成21年度:0箇所 → 平成26年度:8箇所]
低炭素社会実現プロジェクト	地域連携フリティカルバスの実施件数	[平成21年度:31件 → 平成26年度:90件]
	滋賀県域の温室効果ガス排出量(平成2年比)	[平成19年:△2.6% → 平成42年:△50%] *平成26年度(2014年度)の目標は、「滋賀県低炭素社会実現のための行程表」を踏まえた様々な主体の取組により、平成22年の目標である9%削減以上の削減を目指す。
琵琶湖の再生プロジェクト	琵琶湖漁業の漁獲量(外来魚を除く)	[平成20年:1,368t → 平成26年:2,100t]
	内湖再生に関する全体ビジョンの作成	内湖再生に関する全体ビジョンの作成
	流域自治会議の設立と運営	流域自治会議の設立と運営
滋賀の未来成長産業プロジェクト	工場等立地件数	[平成21年:25件 → 平成26年:80件(累計)]
	新エネルギー・省エネルギー分野でのビジネスマッチング会参加企業数	[平成21年度:0社 → 平成26年度:延160社(累計)]
	医療・健康分野での創業数(第二創業を含む)	[平成21年度:2件 → 平成26年度:8件(累計)]
地域の魅力まるごと産業化プロジェクト	産学官連携等共同研究件数	[平成21年度:14件 → 平成26年度:40件(累計)]
	水稲作付面積に占める環境こだわり農産物栽培面積割合	[平成21年度:33% → 平成26年度:45%]
	販売用野菜作付面積	[平成21年度:1,016ha → 平成26年度:1,400ha]
	観光客数(宿泊者数)	[平成21年:2,864,500人 → 平成26年:330万人]
みんなで命と暮らしを守る安全・安心プロジェクト	(仮称)危機管理センター整備計画の具体化	(仮称)危機管理センター整備計画の具体化
	抗インフルエンザ薬の備蓄数	[平成21年度:194,400人分 → 平成26年度:276,800人分]
	人口1万人あたりの刑事犯認知件数	[平成21年:110.4件 → 平成26年:全国平均以下]
	交通事故による死亡者数	[平成21年:65人 → 平成26年:60人]
	(仮称)安全安心な通学路整備計画策定	(仮称)安全安心な通学路整備計画策定
	水害に強い地域づくりに必要な土地利用規制・誘導のための法制度の構築	水害に強い地域づくりに必要な土地利用規制・誘導のための法制度の構築



滋賀県基本構想
「未来を拓く8つの扉」
(リーフレット)
構想策定：平成23年(2011年)3月14日

発行：平成23年 月
発行者：滋賀県(総合政策部企画調整課)
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
電話 (077)528-3312
県ホームページアドレス <http://www.pref.shiga.jp/>
デザイン：株式会社 読売連合広告社
印刷：

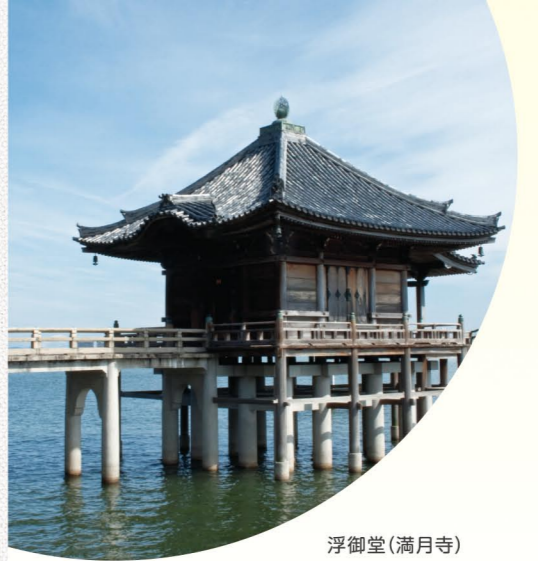
滋賀県基本構想

「未来を拓く8つの扉」リーフレット

住み心地
日本一の
滋賀を
目指します!



滋賀県



浮御堂(満月寺)

基本構想とは?

滋賀の未来の姿や地域づくりの方向性を示すものです。県政経営の基本方針であるだけでなく、県民や各種団体、企業、行政が共有する未来ビジョンとして、県民からの意見・提案を反映しながら策定しています。計画期間は、平成23年度(2011年度)から平成26年度(2014年度)までの4年間です。

長期ビジョン編

約20年後の滋賀の姿を見据える

時代の潮流と課題

滋賀県でも少子高齢化が進んでおり、医療や福祉の体制の充実、生産年齢人口の減少に応じた産業・雇用政策の展開などが課題となっています。暮らしをめぐっては、医療や介護、雇用のセーフティネットや子育ての不安感が高まっています。経済では、グローバル化の中で未来を先取りする産業の構築や多面的な役割を果たす農業の持続的な展開が求められています。環境面では、低炭素社会の実現や琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境の保全が求められています。県土については、地震、洪水、土砂災害などの危険性が高まっています。



未来を拓く

基本理念

「未来を拓く共生社会へ
～人とともに 琵琶湖とともに～」

私たち自身の幸せや豊かさを求めながらも、子や孫たちが滋賀の地に誇りをもち、すべての人の人権が尊重され、幸せや豊かさを実感し安心して暮らすことができるよう行動していくことが、私たちの世代に求められています。

地域や個人の自律性を高め、県民や各種団体、企業、行政などが協働することによって、世代や文化の違いを超え多様な価値観を認め合い、豊かな自然と調和する、人と人、人と自然が共生する社会を築き、私たちの暮らしの未来、社会の未来を拓きます。

20年後の将来の姿

2030年頃の将来の望ましい姿を、県民の暮らしに着目して「健康」「働く」「住む」「学ぶ・育てる」「楽しむ」「つながる」の6つの視点で描いています。あわせて、地域の将来の姿を、「経済・産業」「環境」「県土」という3分野で描いています。

具体的なプロジェクトは